

特集

# プロ球界の“ポスト・ 2年後16球団”構想

# “コロナ” 浮上!?! 『日ハム』は…

## その時『日ハム』は…



▲2023年開業予定の日ハムBP (北広島市)

プロ野球・ソフトバンクの王貞治球団会長が今年初めに打ち出したプロ野球16球団構想。コロナウイルスへの感染対策で異例な開催となっている今季のプロ野球が盛り上がり欠けていることもあって、構想が現実味を帯び始めている。日ハムが本拠地を北広島市に移しボールパーク(BP)がオープンする2023年春にも実現する可能性があり、球界で新機軸を打ち出してきた日ハムが再編後のカギを握る存在にもなりそう。

(ジャーナリスト・黒田 伸)

観客のいないプロ野球がこれほどつまらないものだったとは。中継するテレビの前で飲むビール

も、どこか気が抜けたような味がしてまずい。今季のプロ野球はまさに気が抜けたビールのように、

すつきりしない。

今季は6月に無観客で開幕し、7月からは観客を入れて行うようになってきたものの、8月に入って再び、首都圏や関西圏の都市部で感染が拡大する傾向があるために、5000人を上限とした観客



▲ソフトバンク球団・王貞治会長

### ソフトバンク球団会長が提起

そうした中で、コロナ後を見据えて野球関係者の間で語られているのが「16球団構想」だ。変則日程の今季はあきらめムード、来季もどう

こう語るのは道内のテレビ関係者だ。日ハムの北海道移転後、年々視聴

率が上がり、CM料で潤ってきた道内の民放テレビ各社は、シーズン前に高い放映権料を払う約束で中継の権利をNPB(日本プロ野球機構)から買い上げる。

そもそも試合が行われないので、これは支払う義務がないものの目玉のプロ野球があつてこそ、中継の合間や前後に入るスポーツCMが高値で売れる。その「儲けの構図」が根底から覆されているのだから、「お手上げの状態」(某テレビ局幹部)だ。

なるかわからない中で、2年後の2022年のシーズンオフまでに今の12球団に新規参入の4球団を加え、16球団にしてはどうか、という「夢」が

膨らんでいる。震源となったのが、コロナ感染拡大前の1月11日に九州圏で放送されたTNCテレビ西日本の番組。

ソフトバンクの王貞治

会長が、「野球界のためには、できるものなら16球団にしたい。あと4つ球団が誕生してほしい」と語り、メディアが一斉にこれを報じた。

世界のホームラン王が言い放つたことで影響は広がっていった。

実は「16球団構想」は今に始まったことではない。2014年には政府の成長戦略に関する自民党の提言として「地域活性化の一環で16球団に拡大する構想」が出された。

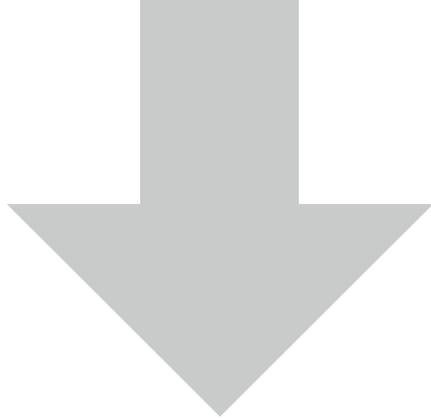
また、12球団で行っているCS(クライマックスシリーズ)はセ・パ両リーグの上位3チームまでが出場し、変則的な試合方法でセ・パ1チームが日本シリーズに出場できる制度だが、選手にもファンにも不満が多い。年間143試合を戦ってリーグのトップに立つ

旭川の“辛口情報”が、  
お好みの方へ。

旭川を中心に、道北の政治経済はもとより、身近な話題も盛り沢山。新聞より掘り下げた密度の高い情報。今、旭川の街を知るなら、北海道経済!

道北圏のオピニオンリーダー  
月刊北海道経済

発行 株式会社北海道経済 旭川市5条11丁目左10号 ☎23-0228



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<http://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)